

# OpenManage Integration for Microsoft System Center バージョン 7.0 インストール ガイド

1

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに.....	5
章 2: OMIMSSC のコンポーネントについて.....	6
章 3: OMIMSSC コンソール拡張のインストール計画.....	7
OMIMSSC の SCCM へのインストール計画.....	7
OMIMSSC の SCVMM へのインストール計画.....	7
章 4: OMIMSSC のシステム要件.....	8
アカウント権限.....	8
OMIMSSC の共通システム要件.....	8
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件.....	9
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の使用許可の検証.....	10
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件.....	11
ネットワーク要件.....	12
章 5: OMIMSSC のインストール、設定、および維持.....	13
OMIMSSC のウェブからのダウンロード.....	13
アプライアンスのセットアップ.....	13
管理ポータル起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード.....	14
IG のインストール OMIMSSC.....	14
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール.....	16
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール.....	16
コンソールの登録.....	17
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動.....	17
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動.....	18
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート.....	18
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動.....	18
章 6: OMIMSSC とコンポーネントの管理.....	19
アプライアンス詳細情報の表示.....	19
OMIMSSC ユーザー管理.....	19
登録済みコンソールの表示または更新.....	19
インストーラおよびアカウントの修復または変更.....	19
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の修復.....	20
SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能の修復.....	20
OMIMSSC IG の修復.....	20
IG および SCCM または SCVMM アカウントの変更.....	20
アンインストール OMIMSSC.....	21
OMIMSSC コンソールの登録解除.....	21
OMIMSSC IG のアンインストール.....	21
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール.....	21
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール.....	21
その他のアンインストール手順.....	22

アプライアンス VM の削除.....	22
Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード .....	22
OMIMSSC のアップグレード.....	22
Service Pack のアップデートについて.....	23
IG のアップグレード.....	24
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアップグレード.....	25
<b>章 7: トラブルシューティング.....</b>	<b>26</b>
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアカウント削除.....	26
アプライアンスと ADK の互換性の問題.....	26
アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失.....	26
SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー.....	27
Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ.....	27
OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗.....	27
アプライアンスに設定されていない IP アドレス.....	27
SCVMM にアクセスする必要な権限がない.....	27
Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119.....	27
登録の失敗.....	28
<b>章 8: Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....</b>	<b>29</b>
デルへのお問い合わせ.....	29

# はじめに

Microsoft System Center 向け OpenManage Integration ( OMIMSSC ) は、Integrated Dell Remote Access Controller ( iDRAC ) with Lifecycle Controller ( LC ) を使用することで、Dell EMC サーバーのライフサイクル全体の管理を可能にする System Center 製品スイートへの統合を提供します。

OMIMSSC は、オペレーティングシステムの導入、ハードウェアのパッチ適用、ファームウェアのアップデート、およびサーバーのメンテナンスを提供します。OMIMSSC を使用すると、Microsoft System Center Configuration Manager ( SCCM ) と統合して、従来のデータセンターで Dell EMC サーバーを管理することも、Microsoft System Center Virtual Machine Manager ( SCVMM ) との統合を利用して、仮想化環境とクラウド環境で Dell EMC サーバーを管理することもできます。

このガイドでは、OMIMSSC と SCCM または SCVMM との統合をインストールするための、ソフトウェアの前提条件とシステム要件に関する情報を説明します。

SCCM および SCVMM の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

## OMIMSSC のコンポーネントについて

次のリストは、本書で使用されている OMIMSSC のコンポーネントとその名前の一覧です。

- Microsoft System Center 向け OpenManage Integration アプライアンス仮想マシン。アプライアンスとも呼ばれ、CentOS ベースの仮想マシンとして Hyper-V でホストされ、次のタスクを実行します。
  - Web Services Management ( WSMAN ) コマンドを使用して、iDRAC 経由で Dell EMC サーバーと対話します。
  - 管理ポータル経由での OMIMSSC アプライアンスの管理を可能にします。
- OMIMSSC 統合ゲートウェイ。統合ゲートウェイ ( IG ) とも呼ばれる、Windows サーバーにインストールされたウェブサービスのセットで、次のタスクを実行します。
  - SCCM または SCVMM PowerShell コマンドを実行し、SCCM または SCVMM とアプライアンスの間の中間ゲートウェイとして機能します。
  - アプライアンス向けに WinPE をカスタマイズします。
- Microsoft System Center 向け OpenManage Integration コンソール。OMIMSSC コンソールとも呼ばれます。
  - SCCM 用 OMIMSSC コンソールプラグイン。SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張とも呼ばれます。
  - SCVMM 用 OMIMSSC コンソールアドイン。SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張とも呼ばれます。

# OMIMSSC コンソール拡張のインストール計画

要件に基づいて、次のトピックに記載されているタスクを実行することにより、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のどちらかを選択してインストールできます。

## トピック：

- [OMIMSSC の SCCM へのインストール計画](#)
- [OMIMSSC の SCVMM へのインストール計画](#)

## OMIMSSC の SCCM へのインストール計画

OMIMSSC を SCCM にインストールするには、次のタスクを実行します。

1. OMIMSSC を SCCM コンソールにインストールするためのシステム要件を満たしていることを確認します。詳細については、[「OMIMSSC のソフトウェア前提条件および要件」](#)を参照してください。
2. サポートサイトからファイルをダウンロードします。詳細については、[「サポートサイトからのダウンロード」](#)を参照してください。
3. アプライアンス VM を作成して設定します。詳細については、[「アプライアンス VM の設定」](#)を参照してください。
4. 以下の OMIMSSC のコンポーネントをダウンロードするには、管理ポータルを起動します。
  - a. IG をダウンロードしてインストールします。詳細については、[「IG のダウンロードとインストール」](#)を参照してください。
  - b. SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をダウンロードしてインストールします。詳細については、[「SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール」](#)を参照してください。
5. 詳細を入力して、SCCM コンソールを OMIMSSC に登録します。詳細については、[「MSSC コンソールの登録」](#)を参照してください。
6. SCCM コンソールから SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能を起動します。詳細については、[「SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動」](#)を参照してください。

## OMIMSSC の SCVMM へのインストール計画

OMIMSSC を SCVMM にインストールするには、次のタスクを実行します。

1. OMIMSSC を SCVMM コンソールにインストールするためのシステム要件を満たしていることを確認します。詳細については、[「OMIMSSC のソフトウェア前提条件および要件」](#)を参照してください。
2. サポートサイトからファイルをダウンロードします。詳細については、[「サポートサイトからのダウンロード」](#)を参照してください。
3. アプライアンス VM を作成して設定します。詳細については、[「アプライアンス VM の設定」](#)を参照してください。
4. 以下の OMIMSSC のコンポーネントをダウンロードするには、管理ポータルを起動します。
  - a. IG をダウンロードしてインストールします。詳細については、[「IG のダウンロードとインストール」](#)を参照してください。
  - b. SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をダウンロードしてインストールします。詳細については、[「SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のダウンロードおよびインストール」](#)を参照してください。
5. 詳細を入力して、SCCM コンソールを OMIMSSC に登録します。詳細については、[「MSSC コンソールの登録」](#)を参照してください。
6. SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をインポートします。詳細については、[「SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインポート」](#)を参照してください。
7. SCVMM で OMIMSSC コンソール拡張機能を起動します。詳細については、[「SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動」](#)を参照してください。

# OMIMSSC のシステム要件

## トピック：

- アカウント権限
- OMIMSSC の共通システム要件
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件
- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件
- ネットワーク要件

## アカウント権限

OMIMSSC で使用されるすべてのアカウントの要件です。

OMIMSSC コンソール拡張の統合ゲートウェイアカウント (IG から MSSC コンソールへの操作の実行に使用される IG サービスアカウント) では、ユーザーが以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- SCCM または SCVMM の管理者権限を持つグループ
- ローカル管理者グループ

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーが SCCM の管理者権限を持ち、以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- ローカル管理者グループ

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーが以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- ローカル管理者グループ
- SCVMM サーバーの管理者のユーザーは、SCVMM のサービスアカウントにしないでください。

## OMIMSSC の共通システム要件

OMIMSSC をインストールする前に、記載された 3 つの OMIMSSC コンポーネントに基づき、次のソフトウェア前提条件のインストールを完了していることを確認します。

- OMIMSSC アプライアンス：
  - Windows Server をインストールして、Hyper-V 役割を有効にします。
  - OMIMSSC でマルチコンソールの登録がサポートされるようになったため、1台のアプライアンスで任意の数の SCCM または SCVMM コンソールを登録できるようになりました。登録を計画しているコンソールの数に基づくハードウェア要件は次のとおりです。

表 2. ハードウェア要件

コンポーネント	SCCM または SCVMM コンソールあたり	SCCM または SCVMM の数 : N
RAM	8 GB	8 GB x N
プロセッサ数	4	4 x N

- IG：
  - 次のいずれかのバージョンの Windows Server をインストールします。
    - Windows Server 2012 R2
    - Windows Server 2012
    - Windows Server 2016
  - Microsoft .NET バージョン 3.5

- Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK)
- PowerShell

管理システムとは、OMIMSSC とそのコンポーネントがインストールされているシステムです。次のリストは、サポートされる ADK、DTK、および WinPE のバージョンの一覧です。

**表 3. 管理システムのシステム要件**

IG システムの OS バージョン	管理コンソールの SCCM または SCVMM のバージョン	ADK のバージョン	PowerShell	Microsoft .NET のバージョン
Windows Server 2012	Microsoft System Center Operations Manager 2012 SP1 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2012 SP1	8.0	3.0	3.5
Windows Server 2012 R2	Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP2 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2 SP1 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP2 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2012 R2	8.1	4.0	4.5
Windows Server 2016	Microsoft System Center Configuration Manager バージョン 1610 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2016	10.0	4.0	

● 管理ポータル :

次のサポートされるブラウザのいずれかをインストールします。

- Internet Explorer 10 以降
- Mozilla Firefox 30 以降
- Google Chrome 23 以降
- Microsoft Edge

特定の OMIMSSC システムの要件に従うには、使用しているコンソールに基づき、次のリンク先で説明されている要件を参照してください。

- [SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件](#)
- [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件](#)

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張にアクセスするには、次の手順を実行します。

- SCCM 管理コンソールをインストールします。

**①メモ:** インストーラは、SCCM 管理コンソールのインストールの有無のみをチェックし、アプライアンスがデータベースに検出レコードを書き込むサイトサーバーに、同じバージョンの SCCM がインストールされているかどうかはチェックしません。正しいバージョンの管理コンソールがインストールされていることを確認してください。

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の使用許可の検証

インストール後のチェック：

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーに SCCM の管理者権限が必要です。アカウントの権限を確認するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC がインストールされているシステムで、<Configuration Manager Admin Console Install Dir>\XmlStorage\Extensions\DLCPugin フォルダへの [書き込み] 許可を付与します。  
次に、PowerShell を使用して [書き込み] 許可を付与します。詳細については、「[ユーザーへの読み取りおよび実行の許可の付与](#)」を参照してください。
2. Windows Management Instrumentation ( WMI ) へのユーザーアクセスを設定します。詳細については、「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」を参照してください。
3. DDR 受信箱にファイルを書き込むための共有およびフォルダの許可を付与します。詳細については、「[共有およびフォルダ許可の付与](#)」を参照してください。

## ユーザーへの読み取りおよび実行の許可の付与

管理者以外のユーザーは、OMIMSSC コンポーネントをインストールする前に、サイトサーバーおよび SMS プロバイダサーバーで次の前提条件を満たす必要があります。

1. PowerShell で、Enable-PSRemoting コマンドを実行します。
2. 確認メッセージで Y を入力します。
3. PowerShell で、Set-ExecutionPolicy RemoteSigned コマンドを実行します。
4. 確認メッセージで Y を入力します。

## WMI へのユーザーアクセスの設定

WMI へユーザーがリモートでアクセスできるように設定するには、次の手順を実行します。

**①メモ:** システムのファイアウォールが WMI 接続をブロックしないことを確認します。

1. dcomcnfg.exe を使って Distributed Component Object Model ( DCOM ) にアクセスするには、統合ゲートウェイにユーザー許可を付与します。詳細については、「[DCOM 用のユーザー許可の付与](#)」を参照してください。
2. dcomcnfg.exe を使って DCOM Config Windows Management and Instrumentation ( WMI ) コンポーネントにアクセスするには、Dell Provisioning Server にユーザー許可を付与します。詳細については、「[DCOM Config WMI 用のユーザー許可の付与](#)」を参照してください。
3. 名前空間セキュリティを設定し、アクセス許可を付与します。詳細については、「[名前空間セキュリティの設定とアクセス許可の付与](#)」を参照してください。
4. 「[検出に使用するアカウントの設定](#)」に戻ります。

## DCOM 用のユーザー許可の付与

DCOM 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。

1. dcomcnfg.exe を起動します。
2. [ コンポーネント サービス ] コンソールの左ペインで、[ コンピューター ] を展開し、[ 統合ゲートウェイ ] を右クリックして、[ プロパティ ] を選択します。
3. [ COM セキュリティ ] で次の手順を実行します。
  - [ アクセス許可 ] で [ 制限の編集 ] をクリックし、[ リモートアクセス ] を選択します。
  - [ 起動とアクティブ化のアクセス許可 ] で [ 制限の編集 ] をクリックし、[ ローカルからの起動 ]、[ リモートからの起動 ]、および [ リモートからのアクティブ化 ] を選択します。
4. 「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」の手順 2 に進みます。

## DCOM Config WMI 用のユーザー許可の付与

DCOM Config WMI 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。

1. dcomcnfg.exe を起動します。
2. [ マイ コンピューター ] > [ DCOM Config ] の順に展開します。
3. [ Windows Management and Integration ] を右クリックして、[ プロパティ ] を選択します。
4. [ セキュリティ ] タブの [ 起動とアクティブ化許可 ] から [ 編集 ] をクリックし、[ リモート起動とリモート アクティブ化許可 ] を選択します。
5. [ WMI へのユーザー アクセスの設定 ] の手順 3 に移動します。

## ネームスペースセキュリティの設定およびアクセス権の付与

ネームスペース セキュリティを設定し、アクセス許可を付与するには、次の手順を実行します。

1. wimimgmt.msc を起動します。
2. [ WMI コントロール ] ペインで、[ WMI コントロール ] を右クリックし、[ プロパティ ] を選択してから、[ セキュリティ ] を選択します。
3. ROOT\SMS Namespace に進みます。
4. [ メソッドの実行 ]、[ 書き込みの提供 ]、[ アカウントの有効化 ]、[ リモート有効化許可 ] を選択します。
5. Root\cimv2\DLCI に進みます。
6. [ メソッドの実行 ]、[ 書き込みの提供 ]、[ アカウントの有効化 ]、[ リモート有効化許可 ] を選択します。
7. [ 検出に使用するアカウントの設定 ] の手順 4 に進みます。

または、Configuration Manager ユーザーを [ SMS\_Admin ] グループのメンバーにして、このグループの既存の許可に [ リモートの有効化 ] を付与することもできます。

## 共有およびフォルダ許可の付与

DDR 受信トレイにファイルを書き込むための共有およびフォルダ許可を付与するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールの [ 管理 ] で、[ SMS\_<サイトコード> ] 共有に書き込みを行うためのユーザー許可を付与します。
2. [ エクスプローラー ] を使用して、共有場所である [ SMS\_<サイトコード> ] 共有に移動し、次に ddm.box フォルダに移動します。次のフォルダのドメインユーザーにフルコントロール権限を付与します。
  - [ SMS\_<サイトコード> ]
  - 受信トレイ
  - ddm.box

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件

- SCVMM 上の IG の場合：
  - SC2012 VMM R2 UR12 コンソール、SC2012 VMM SP1 UR11 コンソール、または SC2016 VMM UR2.1 以降がインストールされている。
    - フェールオーバークラスタリング機能が有効になっている。
  - SC2012 VMM R2 コンソール固有のシステム要件：
    - SC2012 VMM SP1 から SC2012 VMM R2 にアップグレードしている場合は、Windows PowerShell 4.0 へのアップグレードが必要です。
  - SC2012 VMM SP1 コンソール固有のシステム要件：
    - ① **メモ:** SC2012 VMM SP1 にアップデートする場合は、次のことを念頭に置いてください。SC2012 VMM UR5 以降にアドインをインポートする時に、コンソールがクラッシュする場合があります。この問題に関する情報および解決については、サポート技術情報の URL : [Support.microsoft.com/kb/2785682](http://Support.microsoft.com/kb/2785682) から、問題 5 を参照してください。インストールされているアップデートのロールアップのバージョンにかかわらず、このアップデートを実行します。

# ネットワーク要件

アプライアンスで使用されるポート：

次のリストは、さまざまな OMIMSSC コンポーネントで使用されるポートの一覧です。したがって、ファイアウォールの例外リストにこれらのポートを含めてください。

表 4. ポート情報

使用状況	プロトコル	ポート番号	設定可能
iDRAC 通信	WSMan	443	無
FTP コマンドクライアント	FTP	21	無
DNS クライアント	DNS	53	無
Dell オンラインデータアクセス	HTTP	80	無
管理コンソール	HTTP	80	無
HTTPS サーバー	HTTPS	443	無
PostgreSQL	Postgres	5432	無
統合ゲートウェイ	HTTPS	8455	はい。統合ゲートウェイのインストール中に設定可能
自動検出	HTTPS	4433	無
iDRAC — これらのポートは、iDRAC が統合ゲートウェイによって作成された CIFS 共有にアクセスできるよう有効にされています。	HTTPS	135 から 139、および 445	無

# OMIMSSC のインストール、設定、および維持

## トピック：

- OMIMSSC のウェブからのダウンロード
- アプライアンスのセットアップ
- 管理ポータル起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード
- コンソールの登録
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動
- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

## OMIMSSC のウェブからのダウンロード

OMIMSSC をダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. Dell Digital ストアからアプライアンスファイルをダウンロードします。  
ライセンスキーをダウンロードできない場合は、[www.dell.com/support/softwarecontacts](http://www.dell.com/support/softwarecontacts) に掲載されている、地域および製品ごとのデルサポートの電話番号までお問い合わせください。
2. VHD ファイルを解凍して、「アプライアンスのセットアップ」を行います。

## アプライアンスのセットアップ

アプライアンスをセットアップする Hyper-V について、次の要件を満たしていることを確認します。

- 仮想スイッチ が設定済みであり、使用可能である。
- Microsoft System Center ( MSSC ) がセットアップされているシステムのユーザー資格情報。
- SCCM または SCVMM の FQDN
- IG の FQDN およびユーザー資格情報
- 設定ファイルを保管する共有ネットワークの場所
- 登録する MSSC コンソールの数に基づいて、アプライアンス VM にメモリーが割り当てられている。詳細については、「[一般的な要件](#)」を参照してください。

アプライアンスをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順に従って、アプライアンス VM を導入します。
  - a. [ Windows サーバ ] の [ Hyper-V マネージャ ] の [ アクション ] メニューで、[ 新規 ] を選択して [ Virtual Machine Manager ] を選択します。  
[ 仮想マシンの新規作成ウィザード ] が表示されます。
  - b. [ 開始する前に ] で [ 次へ ] をクリックします。
  - c. [ 名前と場所の指定 ] では、仮想マシンの名前を入力します。  
別の場所に仮想マシンを格納する場合は、[ 別の場所に仮想マシンを格納 ] を選択し、[ ブラウズ ] をクリックして、新しい場所をスキャンします。
  - d. [ 世代の指定 ] で、[ 第 1 世代 ] を選択してから、[ 次へ ] をクリックします。
  - e. [ メモリーの割り当て ] で、前提条件で示されるメモリー容量を割り当てます。
  - f. [ ネットワークの設定 ] の [ 接続 ] で、使用するネットワークを選択して、[ 次へ ] をクリックします。
  - g. [ 仮想ハードディスクの接続 ] で [ 既存の仮想ハードディスクを使用 ] を選択し、[ OMIMSSC—v7 ] VHD ファイルがある場所に移動して、そのファイルを選択します。
  - h. [ 概要 ] で指定した詳細を確認し、[ 完了 ] をクリックします。
  - i. [ 仮想プロセッサの数 ] の値を「2」に設定します。デフォルトでは、プロセッサの数は「1」に設定されています。  
プロセッサ数を設定するには次のようにします。

- i. アプライアンスを右クリックして、[ 設定 ] を選択します。
  - ii. [ 設定 ] で、[ プロセッサ ] を選択し、[ 仮想プロセッサの数 ] を「2」に設定します。
2. アプライアンス VM が適切に設定されていることを確認するには、アプライアンス VM を選択して右クリックし、[ 設定 ] をクリックして、次のタスクを実行します。
    - a. アプライアンスのメモリ割り当てが、**共通の要件**に関する項に記載されている要件に従っていることを確認します。足りない場合は、[ スタートアップ RAM ] にメモリを増設し、[ 適用 ] をクリックします。
    - b. プロセッサ数が、**共通の要件**に関する項に記載されている要件に従っていることを確認します。要件を満たしていない場合は、[ プロセッサ数 ] の [ 仮想プロセッサ数 ] にプロセッサ数を指定します。
    - c. IDE コントローラーの [ 仮想ハード ディスク ] フィールドを確認します。これには、[ IDE コントローラー 0 ] > [ ハードドライブ ] で [ OMIMSSC—v7 ] ファイルを参照している [ 仮想ハード ディスク ] を確認します。なければ、[ 参照 ] をクリックして VHD ファイルが解凍された場所を開き、[ OMIMSSC—v7 ] ファイルを選択して [ 適用 ] をクリックします。
    - d. [ ネットワーク アダプター ] > [ 仮想スイッチ ] で物理 NIC カードに接続されていることを確認して、接続されていなければ NIC カードを設定してください。[ 仮想スイッチ ] ドロップダウンメニューで適切な NIC カードを選択して、[ 適用 ] をクリックします。
  3. [ Hyper-V マネージャー ] メニューで、アプライアンス VM を右クリックし、次の手順を実行します。
    - a. [ 接続 ] をクリックし、[ 起動 ] をクリックします。  
アプライアンスの選択した仮想ハードディスクで新たに作成した仮想マシンがカーネルパニックの例外で起動しない場合は、仮想マシンの設定を編集して、該当仮想マシンの動的メモリオプションを有効にしてください。  
仮想マシンの動的メモリー オプションを有効にするには、次のタスクを実行します。
      - a. アプライアンス VM を右クリックして、[ 設定 ]、[ メモリー ] の順にクリックします。
      - b. [ 動的メモリー ] で、[ ダイナミックメモリーを有効にする ] チェックボックスを選択して、詳細を指定します。
  4. アプライアンスが起動したら、次のタスクを実行します。
 

**① | メモ:** すべてのサービスが開始されるように、5 分間待ってから [ Admin ] としてログインすることを推奨します。

    - a. [ localhost ログイン ] に admin と入力します。
    - b. [ 新しい管理者パスワードを入力 ] にパスワードを入力します。
    - c. [ 新しい管理者パスワードを確認してください ] にパスワードを再入力し、[ Enter ] を押して続行します。
    - d. [ アプライアンス ] で、[ ネットワークの設定 ] を選択し [ Enter ] を押して、次のサブステップを実行します。
      - i. [ アクションの選択 ] で [ DNS 設定 ] を選択し、[ Enter ] を押します。
      - ii. [ DNS 設定 ] の [ ホスト名 ] で、ホストの FQDN を入力し、[ OK ] を押します。  
例：Hostname.domain.com

**② | メモ:** [ デバイス構成 ] オプションを選択すると、アプライアンスの IP アドレスを変更できます。これ以降、アプライアンスの IP アドレスあるいはホスト名を変更することはできません。

    - iii. [ アクションの選択 ] で [ 保存して終了 ] を押します。
    - e. ( オプション ) 複数の SCCM と SCVMM を使用する場合は、[ 登録パラメーターの設定 ] オプションで詳細を入力して、登録するコンソールの数を入力します。
    - f. アプライアンスから、管理ポータル URL をメモします。

## 管理ポータルの起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード

1. ブラウザから、管理ポータルを起動します。
2. アプライアンスへのログイン時に使用したものと同一資格情報を使用して、管理ポータルにログインします。  
フォーマット：https://<IP アドレス>
3. [ ローカルのイントラネットサイト ] に管理ポータルの URL を追加します。
4. IG と、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をダウンロードします。

## IG のインストール OMIMSSC

SCCM コンソール用 IG または SCVMM コンソール用 IG をインストールするには、次の手順を実行します。

- SCCM または SCVMM 管理コンソールのいずれかがすでに管理サーバーにインストールされていることを確認します。
  - 所属する組織の Powershell 実行ポリシー ガイドラインを検証した後、有効な PowerShell 実行ポリシーが [ RemoteSigned ] としてローカル マシンに設定されていることを確認し、統合ゲートウェイ サービス アカウントが [ 制限なし ] に設定されていることを確認します。ポリシー設定の詳細については、次の MSDN 記事を参照してください。
    - 『PowerShell 実行ポリシーについて』: [Technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748](https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748)
    - 『PowerShell グループ ポリシー設定について』: [Technet.microsoft.com/library/jj149004](https://technet.microsoft.com/library/jj149004)
1. 管理ポータルで、[ インストーラーのダウンロード ] をクリックして、インストーラーを任意の場所に保存します。
  2. 次の手順を実行して、すでに設定されている IG アカウントを使用して IG をインストールします。

### ① メモ:

- 1つの IG が1つのコンソールに関連付けられていることを確認してください。
- IG アカウントを使用して、IG をインストールする予定のシステムにログインします。

- a. **OMIMSSC 統合ゲートウェイ インストーラー** を実行します。
- b. [ OMIMSSC [ 統合ゲートウェイ インストーラーへようこそ ] ] ページで、[ 次へ ] をクリックします。
- c. [ ライセンス契約 ] で、[ ライセンス契約の条件に同意します ] を選択して、[ 次へ ] をクリックします。
- d. [ ライセンス : オープン ソース ソフトウェア ] で、オープンソース関連の情報を参照し、[ 次へ ] をクリックします。
- e. [ 前提条件のステータス ] で次の操作を行って、[ 次へ ] をクリックします。
  - i. 最新の前提条件のステータスを表示するには、[ 前提条件のスキャン ] をクリックして、ステータスを確認します。
  - ii. 前提条件をインストールするには、[ 前提条件のインストール ] をクリックします。

[ 前提条件のインストール ] をクリックすると、IG によって次の前提条件が自動インストールされます。

- Microsoft .NET 4.5 下の HTTP のアクティブ化
- IIS 7.5 下の IIS における Windows 認証
- IIS 7.5 下の IIS における URL 認証
- IIS 6 WMI 互換性下の IIS 6 メタベース互換性、および IIS 6 スクリプトツール
- フェールオーバークラスタリング

- f. [ 統合ゲートウェイの設定 ] で、IG サービス アカウント ユーザーの詳細を入力し、アカウントの前提条件が満たされていることを確認します。

アプライアンスと IG 間の通信に使用するポート番号を割り当てます。有効なデフォルトのポート番号は 8455 です。ただし、要件に応じて別のポート番号を設定することもできます。ポート番号の詳細については、「[OMIMSSC の共通システム要件](#)」を参照してください。

IG 共有フォルダーの場所を変更するには、[ 共有フォルダーの選択 ] をクリックし、新しい場所に移動して、[ 次へ ] をクリックします。

① **メモ:** 作成する共有フォルダーに、最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

デフォルトのインストールフォルダーの [ 統合ゲートウェイ ] が選択されています。インストールフォルダーの場所を変更するには、[ 変更 ] をクリックして新しい場所に移動します。変更作業が完了したら、[ 次へ ] をクリックします。

- g. [ プログラムのインストール準備完了 ] で、[ 次へ ] をクリックします。  
次の共有ディレクトリは IG のインストール中に作成されますが、IG 認証情報を使用してアクセス可能であることを確認します。
  - Protection Vault
  - DTK
  - ISO
  - LCDRIVER
  - OMSA
  - WIM
  - UPDATE
- h. IG のインストールが完了したら、[ 終了 ] をクリックします。

IG のインストールを確認します。詳細については、「[OMIMSSC での IG のインストールの確認](#)」を参照してください。

## IG のインストールの確認 OMIMSSC

IG のインストールを確認するには、次の手順を実行します。

1. ホスト名を使用して、次の方法でアプライアンス、SCCM または SCVMM、および IG 間の接続を確認します。

- 読み取り専用ユーザーとしてアプライアンスにログインします。次に、アプライアンスから IG サーバーと SCCM または SCVMM サーバーに Ping を実行します。
  - 読み取り専用ユーザーとしてアプライアンスにログインするには、[ readonly ] というユーザー名とアプライアンス管理者パスワードを入力します。
- IG サーバーにログインし、アプライアンスおよび SCCM または SCVMM サーバーに対して Ping を実行します。
- SCCM または SCVMM サーバーにログインし、アプライアンスおよび IG サーバーに対して Ping を実行します。

Ping に応答がない場合は、次を確認します。

- ファイアウォールが通信をブロックしていない。
- DNS サーバーの IP がアプライアンスの [ DNS 設定 ] で設定されている。
- アプライアンスが DNS サーバーに存在する。

2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) が実行されていることを確認し、`Https://<IG server>:IG port number(default 8455)` URL を使用してブラウザを起動して、IIS サイトにアクセスできるかどうかを確認します。

IG 認証情報を使用してブラウザで IG サービスを開くことができない場合は、次を確認します。

- ファイアウォールは、IG サーバーと IG ポート番号をブロックしていません。
- ウイルス対策などのセキュリティのツールが IG ポートまたは IIS サービスをブロックしていません。

3. IG のインストール中に、`\\IGServerHostName` パスの共有フォルダーにアクセスできるかどうかを確認します。

共有フォルダー内のファイルにアクセスできない場合は、次を確認します。

- IG サーバーの Server Message Block (SMB) の構成
- IG サーバーの IP アドレスが DNS サーバ内に入力されています。

4. IG 認証情報を使用して SCCM または SCVMM コンソールにアクセスして、IG ユーザーが SCCM または SCVMM 管理者グループに属しているかどうかを確認します。管理者が SCCM または SCVMM サービス ウィンドウのタイトルバーに表示されている場合、IG ユーザーには管理者権限があります。

5. ( 初回ユーザーには適用されません ) アプライアンスのセットアップを開始する前に、Dell アプリケーション プロファイルが削除されていることを確認します。詳細については、「[その他のアンインストール手順](#)」の「[OMIMSSC アプリケーション プロファイルの削除](#)」セクションを参照してください。

6. DNS にすべての管理システムのエントリーがあるかどうかを確認します。

7. IG サービス ユーザー アカウントの [ 実行ポリシー ] が [ 制限なし ] に設定されていることを確認します。

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール

- SCCM 管理コンソールを使用する前に、SCCM サイト サーバーに OMIMSSC をインストールするようにしてください。
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール、アップグレード、アンインストールを行う前に、Configuration Manager を閉じておくことを推奨します。

1. `OMIMSSC_SCCM_Console_Extension.exe` をダブルクリックします。  
[ ようこそ ] 画面が表示されます。
2. [ 次へ ] をクリックします。  
ライセンス契約が表示されます。
3. ライセンス契約に同意し、[ 次へ ] をクリックします。
4. [ 次へ ] をクリックします。  
[ プログラムのインストール準備完了 ] 画面が表示されます。
5. [ インストール ] をクリックします。  
進捗バーが表示されます。インストール後、完了メッセージが表示されます。
6. [ 次へ ] をクリックします。
7. [ インストールが完了しました ] で、[ 終了 ] をクリックします。

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストール

- OMIMSSC コンソールを SCVMM コンソールがインストールされているシステムにインストールします。OMIMSSC コンソールをインストールしたら、OMIMSSC コンソールを SCVMM コンソールにインポートできます。
  - SC2012 VMM R2、SC2012 VMM SP1、または SC2016 VMM コンソールがインストールされていることを確認します。
1. [ 管理ポータル ] で、[ ダウンロード ] をクリックします。
  2. [ OMIMSSC SCVMM コンソール拡張機能 ] で、[ インストーラーのダウンロード ] をクリックして、ファイルを任意の場所に保存します。

3. [ OMIMSSC\_SCVMM\_Console\_Extension.exe ] インストーラーを実行します。

**メモ:** iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、Transport Layer Security ( TLS ) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効に設定されています。コンソール拡張機能をインストールする前に、次のナレッジベース記事 ( Support.microsoft.com/en-us/kb/3140245 ) に記載されているように、アップデートをインストールして TLS 1.1 以降を有効にします。OMIMSSC が正常に動作するように、お使いの Web ブラウザーに応じて、SCVMM サーバーおよび SCVMM コンソールで TLS 1.1 以降のサポートを有効にすることをお勧めします。iDRAC の詳細については、Dell.com/idracmanuals を参照してください。

4. [ OMIMSSC SCVMM コンソール拡張機能へようこそ ] ページで、[ 次へ ] をクリックします。

5. [ ライセンス契約 ] ページで、[ ライセンス契約の条件に同意します ] を選択してから、[ 次へ ] をクリックします。

6. [ インストール先フォルダ ] ページには、デフォルトのインストールフォルダが選択されています。場所を変更するには、[ 変更 ] をクリックし、新しい場所をスキャンして、[ 次へ ] をクリックします。

7. [ プログラムのインストール準備完了 ] ページで、[ インストール ] をクリックします。

8. [ InstallShield ウィザードの完了 ] ページで、[ 終了 ] をクリックして、SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストールを完了します。

9. SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能を SCVMM コンソールにインポートします。

## コンソールの登録

次の動作条件が満たされていることを確認します。

- IG がすでにインストールされている。
- OMIMSSC の SCCM 用のコンソール拡張機能または OMIMSSC の SCVMM 用のコンソール拡張機能がインストールされている。
- SCCM 管理コンソールで、OMIMSSC コンソール拡張機能を使用するように SCCM サイト サーバーが登録されている。

SCCM または SCVMM コンソールを OMIMSSC に登録するは、次の手順を実行します。

1. ブラウザーを開き、アプライアンスの URL を入力します。  
管理ポータルログイン ページが表示されます。

2. [ 設定 ]、[ コンソールの登録 ]、[ 登録 ] の順にクリックします。  
[ コンソール登録 ] ページが表示されます。

3. SCCM または SCVMM コンソールおよび IG のいずれかの FQDN、認証情報、IG ポート番号を指定します。  
デフォルトの IG ポート番号は 8455 です。

**メモ:** 入力した IG の詳細が他の SCCM または SCVMM コンソールに関連付けられていないことを確認します。

4. ( オプション ) [ 新規作成 ] をクリックして、IG および SCCM または SCVMM コンソールにアクセスするための Windows タイプの認定資格プロファイルを作成します。  
認定資格プロファイルを作成する方法の詳細については、『Microsoft System Center 向け OpenManage Integration ユーザーズ ガイド』を参照してください。

5. 次のコンポーネント間の接続を確認するには、[ 接続のテスト ] をクリックします。

- アプライアンスと IG
- IG と SCCM または SCVMM

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能へのログインに使用したものと同一認証情報を使用して、Windows OS にログインします。

SCCM コンソールで、[ アセットとコンプライアンス ]、[ 概要 ]、[ SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能 ] の順にクリックします。

**メモ:** SCCM コンソールへの接続にリモート デスクトップ プロトコル ( RDP ) を使用している場合は、RDP が閉じると OMIMSSC セッションがログアウトされることがあります。そのため、RDP セッションを再度開いて、再度ログインしてください。

# SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張を起動するには、次の手順を実行します。

1. コンソール拡張を SCVMM にインポートします。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート](#)」を参照してください。
2. コンソール拡張を SCVMM に追加します。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動](#)」を参照してください。


## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限または委任管理のどちらかを使用して、SCVMM コンソールを起動します。
2. [設定] をクリックし、[コンソールアドインのインポート] をクリックします。  
[コンソールアドインのインポートウィザード] が表示されます。
3. [参照] をクリックして、コンソール拡張の zip ファイルを選択し、[次へ] をクリックして [完了] をクリックします。  
アドインが有効であることを確認します。
4. 左ペインで [ファブリック] をクリックして、リボンの [DELL EMC OMIMSSC] をクリックします。

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の起動

1. SCVMM コンソールで、[ファブリック] を選択してから、[すべてのホスト] サーバーグループを選択します。

 **メモ:** OMIMSSC を起動するには、アクセス可能な任意のホストグループを選択できます。

2. [ホーム] リボンで、[OMIMSSC] を選択します。

# OMIMSSC とコンポーネントの管理

## トピック：

- [アプライアンス詳細情報の表示](#)
- [OMIMSSC ユーザー管理](#)
- [登録済みコンソールの表示または更新](#)
- [インストーラおよびアカウントの修復または変更](#)
- [アンインストール OMIMSSC](#)
- [Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード](#)
- [OMIMSSC のアップグレード](#)

## アプライアンス詳細情報の表示

1. ブラウザーから管理ポータルを起動します。
2. アプライアンスへのログイン時に使用したのと同じ認証情報を使用して管理ポータルにログインし、[アプライアンスの詳細情報] をクリックします。アプライアンスの IP アドレスとホスト名が表示されます。

## OMIMSSC ユーザー管理

1. ブラウザーから管理ポータルを起動します。
2. アプライアンスへのログイン時に使用したのと同じ認証情報を使用して管理ポータルにログインし、[OMIMSSC ユーザー管理] をクリックします。SCCM または SCVMM にログインしたユーザーの詳細が表示されます。

## 登録済みコンソールの表示または更新

次の手順を実行すると、OMIMSSC に登録されているすべての MSSC コンソールが表示されます。

1. 管理ポータルで [設定] をクリックし、[コンソール登録] をクリックします。  
登録されているすべてのコンソールが表示されます。
2. 登録されているコンソールの最新のリストを表示するには、[更新] をクリックします。

## インストーラおよびアカウントの修復または変更

インストーラファイルのいずれかを修復するには、以下のトピックを参照してください。

- [SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復](#)
- [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復](#)
- [OMIMSSC IG の修復](#)

OMIMSSC で使用するアカウントの詳細を変更するには、以下のトピックを参照してください。

- IG アカウントのみを変更する場合は、[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復] を参照してください。
- IG アカウントと、SCCM または SCVMM 管理者アカウントを変更する場合は、次の手順を実行します。
  1. IG アカウントを変更します。詳細については、[OMIMSSC IG の修復] を参照してください。
  2. OMIMSSC 管理ポータルから、SCCM または SCVMM 管理者アカウントと IG アカウントを変更します。詳細については、[IG アカウントと SCCM または SCVMM アカウントの変更] を参照してください。

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の修復

OMIMSSC ファイルが破損した場合にファイルを修復するには、次の手順を実行します。

1. SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインストーラーを実行します。  
[[ ようこそ ]] 画面が表示されます。
2. [[ 次へ ]] をクリックします。
3. [[ プログラム メンテナンス ]] で、[[ 修復 ]] を選択して [[ 次へ ]] をクリックします。  
[[ プログラム修正の準備完了 ]] 画面が表示されます。
4. [[ インストール ]] をクリックします。  
進行状況画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールが完了すると、[[ InstallShield ウィザード完了 ]] ウィンドウが表示されます。
5. [[ 終了 ]] をクリックします。

## SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能の修復

OMIMSSC ファイルが破損した場合にそのファイルを修復するには、次の手順を実行します。

1. **SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能**インストーラーを実行します。
2. [[ プログラム メンテナンス ]] で、[[ 修復 ]] を選択して [[ 次へ ]] をクリックします。
3. [[ プログラムの修復または削除の準備完了 ]] で、[[ 修復 ]] をクリックします。
4. 修復タスクが完了したら、[[ 終了 ]] をクリックします。

## OMIMSSC IG の修復

このオプションを使用すると、削除されたファイルまたは破損したファイルを再インストールしたり、OMIMSSC IG に必要なフォルダーを再作成したりすることができます。

1. OMIMSSC IG インストーラーを実行します。
2. [ プログラム メンテナンス ] で、[ 修復 ] を選択して [ 次へ ] をクリックします。
3. [ 修復の準備完了 ] で、IG ユーザー アカウントのパスワードを入力し、[ インストール ] をクリックします。
4. 修復タスクが完了したら、[ 終了 ] をクリックします。

## IG および SCCM または SCVMM アカウントの変更

このオプションを使用すると、OMIMSSC コンソールで SCCM、SCVMM、および IG アカウントのパスワードを変更できます。

管理ポータルから SCCM、SCVMM 管理者認証情報、および IG 認証情報を変更することができます。このプロセスは連続したアクティビティです。

- IG アカウントについては、OMIMSSC でアカウントを変更する前に、次の前提条件を実行します。
  1. Active Directory の認証情報を変更します。
  2. IG インストーラーの認証情報を変更します。
- SCCM または SCVMM アカウントについては、OMIMSSC でアカウントを変更する前に、Active Directory の認証情報を変更します。

インストーラーから OMIMSSC IG アカウントを変更するには、次の手順を実行します。

1. IG インストーラーを実行します。
2. [ プログラム メンテナンス ] で [ 変更 ] を選択してから、[ 次へ ] をクリックします。
3. パスワードを変更して、[ 次へ ] をクリックします。
4. [ プログラムの変更 ] ダイアログ ボックスで [ インストール ] をクリックします。
5. 変更タスクが完了したら、[ 終了 ] をクリックします。

## OMIMSSC 管理ポータルでの認証情報の変更

1. OMIMSSC 管理ポータルで、[ 設定 ]、[ コンソールの登録 ] の順にクリックします。  
登録済みコンソールが表示されます。

2. 編集するコンソールを選択し、[ 編集 ] をクリックします。
3. 新しい詳細情報を入力し、[ 終了 ] をクリックして変更を保存します。

## アンインストール OMIMSSC

OMIMSSC をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC コンソールを登録解除します。詳細については、「[OMIMSSC コンソールの登録解除](#)」を参照してください。
2. IG を削除します。詳細については、「[IG の削除](#)」を参照してください。
3. [ プログラムのアンインストール ] から、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能または SCVMM 用 OMIMSSC コンソールを削除します。詳細については、「[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール](#)」または「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール](#)」を参照してください。
4. アプライアンス VM を削除します。詳細については、「[アプライアンス VM の削除](#)」を参照してください。
5. アプライアンス固有のアカウントを削除します。詳細については、「[その他のアンインストール タスク](#)」を参照してください。

## OMIMSSC コンソールの登録解除

複数の SCCM または SCVMM コンソールを1つのアプライアンスに登録している場合は、1つのコンソールを登録解除しても、OMIMSSC で引き続き作業が行えます。完全なアンインストールについては、『*Microsoft System Center 用 OpenManage Integration インストール ガイド*』を参照してください。

OMIMSSC コンソールの登録を解除するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で [ コンソールの登録 ] をクリックします。  
アプライアンスに登録されているすべてのコンソールが表示されます。
2. コンソールを選択し、[ 登録解除 ] をクリックして、アプライアンスとのコンソールおよび IG の登録を削除します。  
**メモ:**
  - コンソールの登録を解除すると、コンソールに関連付けられているホスト サーバーは OMIMSSC の未割り当てサーバーリストに移動されます。
3. ( オプション ) コンソールにアクセスできない場合、コンソールを強制的に登録解除するプロンプトが表示されたら、[ はい ] をクリックします。
  - IG にアクセスできない場合に OMIMSSC を強制的に登録解除する場合は、次を手動で削除します。
    - SCVMM の [ アプリケーション プロファイル ]
  - OMIMSSC セッションが登録解除時にすでに開いている場合は、SCCM または SCVMM セッションを閉じてから、登録解除を完了します。

## OMIMSSC IG のアンインストール

IG をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. [ OMIMSSC 統合ゲートウェイ ] インストーラーを実行します。
2. [ OMIMSSC [ 統合ゲートウェイ インストーラーへようこそ ] ] ページで、[ 次へ ] をクリックします。
3. [ アンインストール ] をクリックします。

## SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール

OMIMSSC\_SCCM\_Console\_Extension.exe をダブルクリックし、[ 削除 ] を選択して画面の指示に従います。

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアンインストール

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. [ コントロールパネル ] で [ プログラム ] をクリックし、[ プログラムのアンインストール ] をクリックします。
2. [ SCVMM 用 コンソールアドイン ] を選択し、[ アンインストール ] をクリックします。

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の削除

1. SCVMM コンソールで [ 設定 ] をクリックします。
2. [ OMIMSSC ] を右クリックして、[ 削除 ] を選択します。

## その他のアンインストール手順

OMIMSSC コンソール拡張機能を SCVMM から削除するには、次のアカウントとプロファイルを削除します。

- アプライアンス固有の RunAsAccounts
- OMIMSSC アプリケーション プロファイル

## アプライアンス固有の RunAsAccounts の削除

アプライアンス固有の RunAsAccounts を SCVMM コンソールから削除するには、次の手順を実行します。

1. SCVMM コンソールで [[ 設定 ]] をクリックします。
2. [ RunAsAccounts ] をクリックします。
3. アカウントのリストから、アプライアンス固有のアカウントを削除します。  
アプライアンス固有のアカウントには、先頭に「Del1\_」が付加されています。

## OMIMSSC アプリケーション プロファイルの削除

1. SCVMM コンソールで、[[ ライブラリー ]], [[ プロファイル ]] の順にクリックして、[[ アプリケーション プロファイル ]] をクリックします。  
SCVMM で使用されているすべてのアプリケーション プロファイルが表示されます。
2. [ OMIMSSC Registration Profile ] を選択して、削除します。

## アプライアンス VM の削除

アプライアンス VM を削除するには、次の手順を実行します。

1. [ Windows Server ] の [ Hyper-V マネージャー ] でアプライアンス VM を右クリックし、[ オフにする ] をクリックします。
2. アプライアンス VM を右クリックし、[ 削除 ] をクリックします。

## Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード

以前のバージョンの DLCI 製品から OMIMSSC に移行またはアップグレードするには、以下を参照してください。

- SCCM 用 DLCI バージョン 3.3 から移行するには、『SCCM 用 DLCI バージョン 3.3 から OMIMSSC バージョン 7.0 への移行ガイド』を参照してください。
- SCVMM 用 DLCI バージョン 1.3 から移行するには、『SCVMM 用 DLCI バージョン 1.3 から OMIMSSC バージョン 7.0 への移行ガイド』を参照してください。

## OMIMSSC のアップグレード

OMIMSSC のインストールおよびセットアップ後、OMIMSSC の Service Pack アップデートが使用可能である場合、OMIMSSC の Service Pack アップデート機能を使用して Service Pack アップデートをインストールすることができます。

## Service Pack のアップデートについて

OMIMSSC のリリース以後、既存のアプライアンスに対するアップグレードまたは拡張機能として使用可能な、重要な欠陥の修正または機能の追加を共有する必要があります。Service Pack のアップデートと、アプライアンス オペレーティング システムおよび OMIMSSC に対するその他のアップデートを行うことができます。

- Service Pack ファイルは、任意の HTTP サーバーに配置して、Service Pack のファイルを使用してアップデートを行なうことができます。
- これらの Service Pack を段階的に適用することができます。ただし、一度適用した後に元に戻すことはできません。
- この Service Pack は累積的です。つまり、最新の Service Pack では以前のすべてのリリースからの修正が含まれています。

OMIMSSC による Service Pack には、次の 2 つのタイプがあります。

- アプライアンス Service Pack。
- インフラストラクチャ Service Pack

Service Pack アップデートを適用するには、次の手順を実行します。

1. Web から Service Pack をダウンロードします。詳細については、「[アプライアンス Service Pack およびインフラストラクチャ Service Pack のダウンロード](#)」を参照してください。
2. Service Pack アップデートの前提条件のリストを確認します。詳細については、「[Service Pack アップデートの前提条件](#)」を参照してください。
3. ダウンロードした Service Pack アップデートをリポジトリにコピーします。詳細については、「[Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー](#)」を参照してください。
4. 管理ポータルで、リポジトリの URL 情報を入力します。詳細については、「[リポジトリの URL 情報の入力](#)」を参照してください。
5. Service Pack アップデートをインストールします。詳細については、「[Service Pack アップデートのインストール](#)」を参照してください。

## アプライアンス Service Pack およびインフラ Service Pack のダウンロード

デジタル資格情報サイトから Service Pack をダウンロードするには、有効なサブスクリプションが必要です。

インフラ Service Pack は、無料で利用可能です。

Service Pack をダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. URL ( [Dell.com/support/licensing/us/en/19/Lkm/Index](https://Dell.com/support/licensing/us/en/19/Lkm/Index) ) からデジタル資格情報ポータルにログインします。
2. [ 使用可能なソフトウェアのダウンロード ] を選択し、[ Microsoft System Center Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration ] を選択して、[ 表示 ] をクリックします。
3. Service Pack をダウンロードします。

## Service Pack アップデートの前提条件

アップグレードを開始する前に、次の前提条件を完了します。

1. 実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、ジョブが完了するまで待ちます。
2. OMIMSSC アプライアンスをバックアップします。詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

## Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー

ダウンロードした Service Pack を配置するには、リポジトリが必要です。

サーバパックのすべてのファイル形式が HTTP サーバでサポートされていることを確認してください。サポートされていない場合は、HTTP 管理者に問い合わせるサポートを追加してください。次のファイル形式がサポートされています。

- .RPM
- .XML
- .TXT
- .BZ2

.BZ2 ファイル形式を有効にするには、次の手順を実行します。

1. repo ファイルが保存されているサーバーで、IIS マネージャを開きます。
2. ホスト名を展開します。[ サイト ] [ デフォルト Web サイト ] の順にクリックします。
3. [ アクション ] ペインで、[ 追加 ] をクリックします。  
[[ MIME タイプを追加 ] ] ウィンドウが表示されます。
4. [ ファイル名の拡張子 ] に [ .BZ2 ] を、[ MIME タイプ ] に [ APP/BZ2 ] を設定して、[ OK ] をクリックします。

リポジトリを準備するには、次の手順を実行します。

1. サービスパックファイルを直接 HTTP サーバーに配置します。
2. ダウンロードしたサービスパックをダブルクリックして、任意の場所にファイルを解凍します。
3. HTTP サイトに解凍されたファイルをコピーします。

## リポジトリ URL の入力による Service Pack の適用

URL 情報を入力するには、次の手順を実行します。

1. [ OMIMSSC ] で、[ 設定 ] > [ Service Pack アップデート ] を選択します。
2. [ リポジトリ URL ] に、`http://<servername>:<portname>/<repository path>` の形式で URL 情報を入力し、必要に応じてプロキシサーバー詳細を入力してから、[ 保存 ] をクリックします。

## Service Pack アップデートのインストール

リポジトリの URL 情報が使用可能であり、[ Service Pack アップデート ] ページに含まれていることを確認します。詳細に関しては、「[リポジトリ URL 情報の入力](#)」を参照してください。

Service Pack アップデートをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Service Pack が HTTP サイトに置かれたら、[ OMIMSSC 管理ポータル ] > [ 設定 ] > [ Service Pack アップデート ] の順に移動して、[ アップデートのチェック ] をクリックします。

OMIMSSC の場合は、既存のバージョンとリポジトリで使用可能な Service Pack バージョンが表示されます。

必要に応じて、リリースノートを表示することができます。

2. [ 適用 ] [ OK ] の順にクリックします。
3. アップグレードアクティビティが完了したら、OMIMSSC 管理ポータルにログインし、次にブラウザのキャッシュ履歴をクリアします。

インストール後の手順：

Service Pack のアップデートを確認するには、次の手順を実行します。

1. 管理ポータルの **バージョン情報** で、Service Pack のアップデートバージョンの詳細を表示します。
2. 詳細については、管理ポータルで [ 設定 ] > [ ログ ] の順に選択します。
3. [ upgradelogs ] ディレクトリで Service Pack アップグレードのログファイルを表示またはダウンロードするには、**<Service Pack バージョン番号>** ディレクトリ（たとえば 1.2.0.207 ディレクトリ）を選択して表示するか、Service Pack アップグレードのログファイルをダウンロードします。
4. Service Pack のアップデートに失敗した場合は、**dell.com/support** にお問い合わせください。

Service Pack のアップデートが完了するには、次操作を行います。


- 統合ゲートウェイをアップグレードします。
- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアップグレード

詳細については、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration インストールガイド*』を参照してください。

## IG のアップグレード

IG をアップグレードするには、次の手順を実行します。

作成された共有フォルダに最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

 **メモ:** 10 GB の空きディスク領域がない場合でも、警告メッセージを表示した状態でインストールは続行します。ただし、オペレーティングシステムの導入、およびファームウェアのアップデートが失敗する場合があります。

1. OMIMSSC 管理者ポータルから、[ OMIMSSC 統合ゲートウェイ ] インストーラーをダウンロードします。

2. **OMIMSSC\_Integration\_Gateway.exe** インストーラーを実行します。
3. アップグレードを求めるメッセージで、[ はい ] をクリックします。
4. OMIMSSC [ 統合ゲートウェイへようこそ ] ページで、[ 次へ ] をクリックします。
5. [ ライセンス契約 ] で、[ ライセンス契約の条件に同意します ] を選択して、[ 次へ ] をクリックします。
6. [ ライセンス：オープンソースソフトウェア ] で、オープンソース関連の情報を参照し、[ 次へ ] をクリックします。
7. [ 統合ゲートウェイの設定 ] で、IG サービス アカウント ユーザーとポート番号の詳細を入力します。ステージングサーバーの場所を変更するには、[ 共有フォルダの選択 ] をクリックし、新しい場所をスキャンして、[ 次へ ] をクリックします。  
アプライアンスと IG 間の通信に使用するポートを割り当てます。有効なデフォルト ポートは 8455 です。ただし、要件に基づいて別のポート番号を設定することもできます。IG サービス ユーザー アカウントの [ 実行ポリシー ] は、[ 制限なし ] に設定されています。
8. [ インストール先フォルダー ] では、デフォルトのインストール先フォルダーが選択されています。場所を変更するには、[ 変更 ] をクリックして、新しい場所に移動します。変更作業が完了したら、[ 次へ ] をクリックします。
9. [ プログラムのインストール準備完了 ] で、[ インストール ] をクリックします。
10. インストールが完了したら、[ 終了 ] をクリックします。

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアップグレード

1. 管理ポータルで、[ インストーラーのダウンロード ] をクリックして、インストーラーを任意の場所に保存します。
2. OMIMSSC インストーラーを実行します。
3. アップグレードを求めるメッセージで、[ はい ] をクリックします。
4. [ OMIMSSC へようこそ ] ページで、[ 次へ ] をクリックします。
5. [ ライセンス契約 ] ページで、[ ライセンス契約の条件に同意します ] を選択し、[ 次へ ] をクリックします。
6. [ インストール先フォルダ ] ページには、デフォルトのインストールフォルダが選択されています。場所を変更するには、[ 変更 ] をクリックし、新しい場所をスキャンして、[ 次へ ] をクリックします。
7. [ プログラムのインストール準備完了 ] ページで、[ インストール ] をクリックします。
8. [ InstallShield ウィザードの完了 ] ページで、[ 終了 ] をクリックし、インストールを完了します。
9. SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能を削除して、コンソール拡張機能を再度インポートします。コンソールを削除する方法の詳細については、[ [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の削除](#) ] を参照してください。

# トラブルシューティング

## トピック：

- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアカウント削除
- アプライアンスと ADK の互換性の問題
- アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失
- SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー
- Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ
- OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗
- アプライアンスに設定されていない IP アドレス
- SCVMM にアクセスする必要な権限がない
- Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119
- 登録の失敗

## SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のアカウント削除

SCVMM は、**OMIMSSC 登録プロファイル**という名前でアプライアンスのアカウントを作成します。このプロファイルを削除した場合は、アプライアンスで作業することはできません。

アカウントを削除しないことを推奨します。ただし、SCVMM コンソールを OMIMSSC に再登録します。

## アプライアンスと ADK の互換性の問題

互換性のないバージョンの ADK を含むソフトウェアをインストールした後、OMIMSSC の既存の機能が失敗することがあります。

この回避策として、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration インストール ガイド*』に記載されている前提条件に従って ADK バージョンをアップグレードします。

## アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失

OMIMSSC 統合ゲートウェイがインストールされているサーバーを再起動すると、アプライアンスと統合ゲートウェイ間における接続が失われます。これは、ユーザーに対して統合ゲートウェイの実行ポリシーがアクティブになっていないことが原因です。統合ゲートウェイのユーザーアカウントを使用して統合ゲートウェイサーバーにログインし、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次の手順を完了するまでは接続が復元しません。

PowerShell 実行ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

1. ローカルシステムの PowerShell 実行ポリシーを RemoteSigned に設定し、**統合ゲートウェイサービスアカウント**を Unrestricted に設定します。

ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN の記事を参照してください。

- **PowerShell 実行ポリシー**： [technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx)
- **PowerShell グループポリシー**： [technet.microsoft.com/library/jj149004](https://technet.microsoft.com/library/jj149004)

2. 実行ポリシーが設定されたら、統合ゲートウェイを再起動します。

# SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー

OMIMSSC をインストールし、SC2012 R2 VMM 用のアップデートロールアップを適用すると、セキュリティ上の理由から、SCVMM にはエラーメッセージが表示されます。その結果 OMIMSSC にアクセスすることはできません。

回避策として、次の手順を実行します。

1. デフォルトパスにあるフォルダ C:\Program Files\Microsoft System Center 2012 R2\Virtual Machine Manager\Bin\AddInPipeline\AddIns\- 2. SCVMM を閉じて開きなおします。
- 3. 「SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート」の記載内容に従って、コンソール拡張をアンインストールしてから、インポートします。

## Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ

Mozilla Firefox ブラウザを使用して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、「安全な接続ができませんでした」という警告メッセージが表示されます。

これを回避するには、ブラウザの admin portal の前回のエントリから作成された証明書を削除します。

## OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗

SCVMM 環境で SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をインストールした後で、OMIMSSC コンソール拡張機能アイコンをクリックすると、「Connection to server failed」エラーが表示されます。

回避策として、次の手順を実行します。

- アプライアンスの IP と FQDN を信頼済みサイトとして追加します。
- アプライアンスの IP と FQDN を DNS の [ 前方参照ゾーン ] および [ 逆引き参照ゾーン ] に追加します。
- C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラーメッセージがないか確認します。

## アプライアンスに設定されていない IP アドレス

アプライアンスを作成して起動した後で、IP アドレスが設定されていなかったり、コンソールが黒い画面で表示されたりする場合があります。

この問題を回避するには、仮想スイッチが物理スイッチにマップされており、正しく設定されていることを確認して、アプライアンスに接続します。

## SCVMM にアクセスする必要な権限がない

SCVMM コンソールを開くために使用されている SCVMM アカウントが前提条件を満たしていない場合、次のエラーが表示されず：“You should be an Administrator/Delegated Administrator to launch the Add-In”。

SCVMM アカウントおよび IG アカウントに必要な権限については、「[アカウント権限](#)」を参照してください。

## Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119

Active Directory にサーバーを追加しているとき、次のような SCVMM エラー 21119 が表示されます。[Error 21119: The physical computer with <SMBIOS GUID> did not join Active Directory in time. The computer was expected to join Active Directory using the computer name <host.domain>.]

回避策として、次の手順を実行します。

1. しばらく待ってから、サーバーが Active Directory に追加されたかを確認します。
2. Active Directory にサーバーが追加されていない場合は、Active Directory にサーバーを手動で追加します。
3. SCVMM にサーバーを追加します。
4. SCVMM にサーバーが追加されたら、SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能でサーバーを再検出します。  
サーバーが [ ホスト ] タブの下に表示されます。

## 登録の失敗

テスト接続または登録に失敗した場合に、エラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

- アプライアンスに読み取り専用ユーザーとしてログインし、SCCM または SCVMM サーバーと、IG がインストールされているサーバーに対して Ping を実行します。応答があった場合、しばらく待ってから登録を続行します。読み取り専用ユーザーの詳細については、「[OMIMSSC での IG のインストールの確認](#)」を参照してください。
- インターネット情報サービス (IIS) マネージャサービスが IG がインストールされているサーバーで実行されていることを確認します。
- [ 登録 ] ページに入力された FQDN、認証情報、およびポート番号など、IG の詳細を確認し、これらが有効で、かつ IG のインストール時に指定したものと同一であることを確認します。
- IG サービスアカウントユーザーは、SCVMM のユーザー役割の SCVMM Server Administrator および IG がインストールされたシステムのローカル管理者の一部であることを確認します。
- SCCM または SCVMM サーバーが実行されていることを確認します。
- SCCM 固有：
  - SCCM ユーザーが SCCM サーバー管理者に属していることを確認します。
- SCVMM 固有：
  - SCVMM ユーザーが SCVMM のユーザー役割で SCVMM Server Administrator または委任された管理者に属していることを確認します。
  - SCVMM サーバーが他のアプライアンスに登録されていないことを確認します。同じ SCVMM サーバーをアプライアンスに登録する場合は、**OMIMSSC 登録プロファイル**のアプリケーション プロファイルを SCVMM サーバーから削除します。アプライアンスをアンインストールする方法の詳細については、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration インストールガイド*』を参照してください。
  - SCVMM のロールアップ アップデートを実行した場合は、レジストリー (HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft System Center Virtual Machine Manager AdministratorConsole\Settings) で SCVMM コンソールの Indigo TCP ポートを確認します。これは、SCVMM コンソールのインストール中に使用されたものと同じである必要があります ( デフォルトは 8100 )。

# Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC エンタープライズ システム管理マニュアル — [www.dell.com/esmmanuals](http://www.dell.com/esmmanuals)
  - Dell EMC OpenManage マニュアル — [www.dell.com/openmanagemanuals](http://www.dell.com/openmanagemanuals)
  - Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理マニュアル — [www.dell.com/esmmanuals](http://www.dell.com/esmmanuals)
  - iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — [www.dell.com/idracmanuals](http://www.dell.com/idracmanuals)
  - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理マニュアル — [www.dell.com/esmmanuals](http://www.dell.com/esmmanuals)
  - Dell EMC Serviceability Tools マニュアル — [www.dell.com/serviceabilitytools](http://www.dell.com/serviceabilitytools)
  - Client Command Suite システム管理のドキュメント - [www.dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](http://www.dell.com/DellClientCommandSuiteManuals)
1. [Dell.com/Support/Home](http://Dell.com/Support/Home) に移動します。
  2. [ すべての製品から選択 ] をクリックします。
  3. [ すべての製品 ] セクションで [ ソフトウェアおよびセキュリティ ] をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
    - エンタープライズシステム管理
    - リモートエンタープライズシステム管理
    - Serviceability Tools
    - Dell Client Command Suite
    - 接続クライアントシステム管理
  4. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
    - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

## トピック：

- [デルへのお問い合わせ](#)

## デルへのお問い合わせ

**①メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [Dell.com/support](http://Dell.com/support) にアクセスします。
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの下部にある [ 国/地域の選択 ] ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。